

末久喜十郎

すえひさ・きじゅうろう

福山誠之館校長(第11代)

経歴

生:明治5年(1872年)4月23日、高知県香美郡生まれ

没:(不明)

在任期間

大正6年(1917年)7月9日～大正14年(1925年)3月25日

(在任7年8ヶ月)

関係略歴

明治5年(1872年)4月23日	—	高知県香美郡に生まれる
明治31年(1898年)7月10日	26歳	東京帝国大学文科大学哲学科卒業
明治33年(1901年)4月10日	27歳	静岡県浜松中学校教諭心得
明治33年(1901年)12月10日	28歳	静岡県浜松中学校教諭
明治35年(1903年)12月31日	30歳	静岡県浜松中学校校長事務取扱
明治39年(1907年)10月2日	34歳	静岡県立菫山中学校校長
明治44年(1912年)7月21日	39歳	宮崎県立宮崎中学校校長兼教諭
大正3年(1914年)9月7日	42歳	山梨県立甲府中学校校長
大正6年(1917年)7月9日～14年(1925年)3月25日	45～52歳	広島県立福山中学校(誠之館)校長兼教諭
昭和4年(1929年)ごろ	57歳頃	呉市鹿田町土肥高等女学校 (出典3)
昭和5年(1930年)ごろ	58歳頃	神港中学校校長 (出典4)

関係年表

大正7年(1918年)3月8日	「広島県立中学校学則中改正」(生徒定員本校500人)
大正8年(1919年)3月29日	「広島県立中学校学則中改正」(本校定員800人)
大正8年(1919年)7月5日	大水害のため、本校床上浸水
大正10年(1921年)3月29日	「広島県立中学校学則中改正」(本校定員1000人)
大正11年(1922年)10月18日	教室・剣道場・銃器庫等新築竣工
大正12年(1923年)6月12日～13日	5年生、同盟休校未遂事件

大正13年(1924年)5月9日	「広島県立中学校学則中改正」(本校定員1200人)
大正13年(1924年)9月17日	新講堂竣工

生い立ちと学業、業績

「事績・業績」

本校として、この校長の在任期間の大きな特色は、生徒定員増である。関係年表にあげたように、生徒定員が500人から1200人になっている。これに伴う、教室などの施設面の手当て、また、生徒指導の困難さは非常なものであったと推測されるが、この校長はよくこの難事を解決、「旧制中学教育の完成期といっても差し支えない時代であった」[『誠之館百三十年史』(上巻)、789頁]と評されるような学校経営を行ったことは敬服に値するものである。

この校長はエピソードが多い。

「剣道の寒稽古には生徒にまじって稽古をし、面をうたれても『真剣ではおまえたちにはまけん』といったという話もあり、時には酒を飲んで人力車に乗り、帰宅の途中、車上で演説をして町の人々の評判になったこともあった」(サンケイ新聞—昭和37年11月21日)

「四月の入学式、高知県出身の末久校長は眼光鋭く人を射る気色で種々お話の中で『鉛筆一本盗っても即時退校』という言葉 forcefully 数回くり返された」(「猫の妄言」三谷重夫、『懐古』113頁)

「名門校へ配置される校長は最高に立派な校長先生である。高知県出身東京帝大哲学科卒業の末久喜十郎校長は小柄の体躯に着物、羽織、袴で古武士の風格を備えていた。丸い眼をぱちつかせ頭が禿げて光って可愛らしく、生徒から蛸とあだ名されていた。殆どの先生は綽名を持っていたが、末久校長のもよく見られたなと思った。それは失礼というより親しみがあつた。それでいて全職員を通じ一番品格があり、高貴な風格を備えていて素晴らしい人格校長であった。式には勲章を佩用して重々しかった。毎週1回講堂で合同訓話を受けた。話題も平易な生徒の心理をよく捉え、情熱的で眼が鋭く光り、生徒の青春の邪念を払い奮い立たせた。大正14年名校長も功なり名遂げて定年退職、全校生徒から慈父に別れるように惜しまれた。[「中学時代の思い出」仁科博『懐古』109頁、『誠之館百三十年史』(上巻)、832頁]

大正12年(1923年)6月12日、5年生が2教師の排斥同盟休校事件を起こした。翌13日、5年生全員が参加、近郊の薮山(しとみやま)に集まり、氣勢をあげたが、先輩等の説得により帰校、校長は、生徒に対してはその心得違いをさとし、父兄・先輩にはこのようなことのおこつたことをあやまり、当の2教師も陳謝したので翌14日から平常にもどつたという事件である。その後2、3日たって、全校生徒を講堂に集めた校長は、「今回のようなことは思い出すことも不愉快だ」とだけいって何らの処置もせず、また生徒の教員退職要求も受け付けなかった。5年生が卒業とともに、この2教師は転勤したが、この事件の処理の仕方をみても、この校長の強烈な意志とそれを実行する行動力が充分うかがわれる。 松岡義晃(昭和28年卒)

出典1:『誠之館百三十年史(上巻)』、789・821・832・882・931頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典2:『懐古』、109・113頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和58年5月15日

出典3:『福山学生会雑誌(第68号)』、124頁、福山学生会事務所編刊、昭和4年7月15日

出典4:『福山学生会雑誌(第70号)』、79頁、福山学生会事務所編刊、昭和5年7月30日

2004年10月27日更新:関係略歴●2005年4月4日更新:本文●2005年9月13日更新:本文・関連情報●2006年3月27日更新:本文●2006年6月26日更新:タイトル●2007年6月28日更新:経歴●2008年2月19日更新:経歴・本文●2008年7月14日更新:経歴・出典●